

【学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

21世紀に入り、私たちは経済・社会の大きな変化に直面し、解決すべきさまざまな課題を抱えています。こうした現代的課題の解決には、理論と実証に基づく現状の正しい理解と評価から導かれる政策提言・制度設計が求められます。経済学は課題の解決に向けた考え方とそのため科学的分析手法を提供する学問です。一橋大学大学院経済学研究科は、経済学及びその関連分野において、専門性と総合性を併せ持つ研究者と、学識ある高度な専門的職業人を養成することを目的としています。博士後期課程では、経済学の研究者、または学識ある最先端の高度な専門的職業人を養成することを目的としています。

この教育目標を達成するため、博士後期課程では以下「1. 修得する能力・資質等」に掲げるすべての能力及び資質等を修得していることを、「2. 修得した能力・資質等の判定方法」に基づいて確認し、修了の認定を行い、博士（経済学）の学位を授与します。

1. 修得する能力・資質等

- (1) 経済学の最先端の高度な専門的知識と分析技術
- (2) 自らの研究成果を効果的に発信できる能力
- (3) 学術的に経済学に大きく貢献する、あるいは先端的な経済学の知見を用いて現実社会の諸課題の解明と解決に資する重要な研究を遂行できる能力

2. 修得した能力・資質等の判定方法

- (1) 所定の単位を修得していること。
- (2) 博士論文の口述試問を受けたうえで最終試験に合格すること。

これらの能力・資質等を身に付けた学生は、例えば、学术界で研究者として活躍したり、官民の研究機関、国際機関等で調査・研究業務や EBPM（証拠に基づく政策立案；Evidence-based policy making）の推進等に従事したり、民間企業などでデータ分析等の最先端の高度な専門性をビジネスの現場に活かしたりするなど、様々な場で活躍することが期待されます。